

令和7年度 厚生環境常任委員会視察報告書

1 調査期間 令和7年10月29日（水）～10月31日（金）

2 視察都市及び視察事項

期日	視察都市・企業名	視察事項
10月29日（水）	愛知県安城市	手話言語条例について
10月30日（木）	一般財団法人 未来医療推進機構	Nakanoshima Crossについて
10月31日（金）	京都市伏見区（さすてな京都）	京都市南部クリーンセンターについて

3 視察者

神尾 江里（委員長）	栗原 貴司（副委員長）
加藤 彩野	佐賀 和樹
安田 景輔	吉松 巳希
松尾 宏之	有賀 正義
山口 政哉（議長）	

4 視察事項の概要

《10月29日》

① 視察先自治体

愛知県安城市 【人口及び面積】人口187,665人（2025年10月31日現在）、面積86.05km²

② 視察目的

本市においては、手話はコミュニケーションの手段の1つと考えられ、音声言語と対等な言語であるという認識は低いのが現状であり、条例を制定する事により、手話への理解を広げるとともに、主たる言語と使用する方があらゆる分野での活動に参加をしやすくなり、誰一人取り残さない社会を目指すことが重要であると考えており、条例を制定している安市の状況を本市の参考とするため。

③ 視察内容

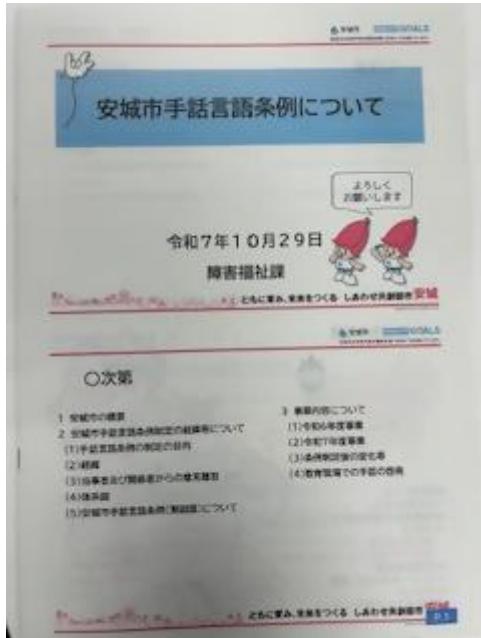
・手話言語条例制定の経緯等、事業内容について

安城市は、手話が言語であると認識をし、理解を深めることで、手話を主たる言語として使用する市民の一層の社会参加を図るとともに、すべての市民が地域の一員として相互に理解を

深め、わかり合い、認め合い、支え合う地域共生社会を実現するに寄与することを目指すことを目的として条例を制定している。

④ まとめ

実際に条例を制定し、イベントなどを開催しても浸透をしていくのは中々厳しいのが現状との事で、本市においてもあらゆるチャンネルやツールを駆使し、条例制定を視野に入れながら研究を重ねていくべきだと考える。



《10月30日》

① 観察先

Nakanoshima Qross 一般財団法人未来医療推進機構 大阪市北区中野島4丁目3-51

② 観察目的

本施設は、未来医療の産業化を推進するため、産業と医療が互いに協業・連携するエコシステムの創成を目指している。また、R&Dセンターとも連携し最先端の医療を提供する病院や診療所も同居をしており、医療産業の拠点を目指し、街と融合を目指しているということについて、本市の参考とするため。

③ 観察内容

・施設概要の説明、施設見学等

医療機関と企業、スタートアップ・支援機関などが1つ屋根の下に集積をすることを特徴とする本施設は、湘南イノベーションパークと同様の施設である。

④ まとめ

本施設の様な複合施設がどの様に街に溶け込み運営をしていくのか、などは大変参考になっ

た。本市の街づくりにおいては今後、村岡新駅などが出来ることにより発展していくと推測されるが、Nakanoshima Qrossとの大きな違いの1つとして周囲にホテルや飲食店などが充実をしており、日本国内や海外から仕事に来られた方を街全体が迎え入れ易い環境になっていた事は本市としては喫緊の課題だと感じた。



《10月31日》

① 観察先自治体・施設

京都市 【人口及び面積】人口 1,433,461 人（2025年11月1日現在）、面積 827.83 km²
さすてな京都（京都市南部クリーンセンター）

② 観察目的

本施設は、ごみ焼却施設・バイオガス化施設・選別資源化施設、など様々な機能を併せ持ち、場内で発生したメタンガスを用いて発電し、ゴミの持つエネルギーも可能な限り余す事がなく活用しエネルギーの効率化が促進され、更にその過程を子どもなど含め、見学が出来るように設計され、環境学習施設の面もあり、本市の参考とするため。

③ 観察内容

・施設概要の説明、施設見学等

エントランスでは、京都の環境や暮らし、地球規模の環境問題などが見てとれ、展示室ではジオラマなどを用いて環境技術の紹介・展望室の設置・更に見学通路にもトリックアートなどを用いて見学者も飽きさせない様々な工夫がされていた。

④ まとめ

小学生の社会科見学など、子どもの頃から環境やゴミの削減について楽しく学べる施設整備は大変参考になり、費用を掛けなくても実施されていた取組は本市においても取り入れる事が可能であると感じた。



以上